

防災宿泊体験～その2～

防災宿泊体験1日目の夕食は、アルファ米、常備用カレー、缶詰でした。缶詰をどのように取り分けるかを話あっていました。アルファ米を初めて食べた生徒もいて、「意外においしかった」という感想もありました。災害時に備えて、自宅に食料などの備えをしておきましょう。



【宿泊体験で食べたものについて】

- ・とてもおいしかった。たいへんな時でもあれだけおいしいものを食べられて「今の科学は進歩しているな」と思った。
- ・実際、災害が起きた時は、全員分なかったり、たくさん食べられなかったりすることがあるから、譲り合うことが大切。
- ・アルファ米は、いつも食べているご飯に近くとても食べやすかったです。火を使わなくてもしっかりとご飯を作れる。少ない食べ物を分け合うという生活の中で、しっかり平等に分けることがとても楽しかった。
- ・アルファ米は、普段食べている白米より固く感じた。また、カレーのルーもレトルトなので、味が違う、甘く感じた。量が限られているときは、それが原因でケンカを起こしたりするので、譲り合い、分け合うことが大切だと思った。
- ・最近のインスタントは昔のものとは違い、進化しているのでおいしかったです。カレーや缶詰などもあって、皆で分け合えたので良かったです。本当に災害が起きたら、こんなにぜいたくなものは食べられないと思うので、災害の被害者の人はもっと辛かったと思いました。

青少年赤十字による避難シミュレーション



【青少年赤十字によるゲームを通じて学んだこと】

- ・災害があったときこそ、協力した方が良いと思った。自分を信じるだけでなく、他の人を信じるのも大切だと思った。
- ・災害のときに決めた判断は、正しい、悪いという判断はない。その判断は、危険をもつ場合もある。今はじっくり考えられているが、災害の時には、急いで決めないといけない。
- ・緊急時には判断が大事だということ。また、それに正解があるかはわからないということ。バンダナやビニール袋で応急手当てができること。自助が7割、共助が2割、公助が1割ということ。いざというときに役立つことばかりなので、しっかりと覚えて、家族などに教えたいと思う。
- ・人によって意見が違く、視点も違うということ。また、意見が同じでも、その理由が異なるということ。実際に災害が起きたら、判断力が鈍るかもしれないが、間違いはないので、自分の考えを行動で示したい。
- ・みんなの意見と自分の意見は同じだったり、違ったりしたけれど、それを選んだ理由は全く違って、おもしろかったです。
- ・クロスロードゲームで誰だって自分の命の方が優先だと思う。だけど、自分とは違う意見をもった人の理由を聞くと、自分の命も大切だが、身近な人の命も大切ということがわかった。
- ・クロスロードゲームでは、災害時にはどのような判断をしようか、その判断が完璧であることはありえないと思った。その中で、少しでもよい判断をするには、物事の一部分だけでなく全体を見たり、他の人が見ていることよりも少し先を見たり、とにかく目先のことだけにとらわれないで、判断をすることが大切だと思った。

持参したビニール袋で三角巾の代用として、腕を固定しました。

「クロスロード」災害対応ジレンマ・ゲームをしている様子です。
(クロスロードの例：あなたはペットの飼い主です。自宅倒壊の危険があるため、避難所に避難しなければならない。家族同然の飼い犬も一緒に避難所に連れて行く?)

